

エフピーOD錠 2.5

【この薬は？】

販売名	エフピーOD錠 2.5 FP-OD Tablet 2.5
一般名	セレギリン塩酸塩 Selegiline hydrochloride
含有量（1錠中）	2.5mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、パーキンソン病治療剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、脳内でドパミンの分解を抑制して、脳内のドパミン量を増加、持続させます。
- ・次の病気の人に処方されます。

パーキンソン病（レボドパ含有製剤を併用する場合：Yahr 重症度ステージ I～IV、レボドパ含有製剤を併用しない場合：Yahr 重症度ステージ I～III）

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- この薬と三環系抗うつ剤（アミトリプチリン塩酸塩等）を併用してはいけません。またこの薬を止めてから三環系抗うつ剤を飲むときは少なくとも14日間をあけなければなりません。
- この薬は飲む量を増やしても、期待される効果が得られない可能性や、多く飲み

すぎることによる副作用があらわれる可能性があります。1日4錠を超える量は飲まないでください。

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にエプピーOD錠に含まれる成分で過敏症のあった人
- ・ペチジン塩酸塩、トラマドール塩酸塩またはタペンタドール塩酸塩を使用中の
人
- ・非選択的モノアミン酸化酵素阻害剤（サフラジン塩酸塩）を使用中の
人
- ・統合失調症または過去に統合失調症があった人
- ・覚せい剤やコカイン等の中枢興奮性の薬に依存のある人または過去に覚せい
剤やコカイン等の中枢興奮性の薬に依存があった人
- ・三環系抗うつ剤（アミトリプチリン塩酸塩等）を使用中あるいは中止して
から14日以内の人
- ・SSRI〔選択的セロトニン再取り込み阻害剤（フルボキサミンマレイン酸塩等）〕、
セロトニン再取り込み阻害・セロトニン受容体調節剤（ボルチオキセチン臭化
水素酸塩）、SNRI〔セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤（ミルナ
シプラン塩酸塩等）〕、NRI〔選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害剤（アト
モキセチン塩酸塩）〕またはNaSSA〔ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗
うつ剤（ミルタザピン）〕というグループに分類される抗うつ剤を使用
中の人

○次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告
げてください。

- ・肝臓に重篤な障害がある人
- ・腎臓に重篤な障害がある人
- ・レボドパを大量に使用中の人
- ・高齢の人
- ・心臓や脳に障害のある人
- ・狭心症の人

○この薬には併用してはいけない薬〔ペチジン塩酸塩、トラマドール塩酸塩（トラ
マール等）、タペンタドール塩酸塩（タペンタ）、非選択的モノアミン酸化酵素阻
害剤（サフラジン塩酸塩）、三環系抗うつ剤（アミトリプチリン塩酸塩等（トリ
プタノール等））、SSRI（フルボキサミンマレイン酸塩（ルボックス等）、パロキ
セチン塩酸塩水和物（パキシル）、セルトラリン塩酸塩（ジェイゾロフト）、エス
シタロプラムシュウ酸塩（レクサプロ）、セロトニン再取り込み阻害・セロトニ
ン受容体調節剤（ボルチオキセチン臭化水素酸塩（トリンテリックス））、SNRI
（ミルナシプラン塩酸塩（トレドミン）、デュロキセチン塩酸塩（サインバルタ）、
ベンラファキシン塩酸塩（イフェクサー）、NRI（アトモキセチン塩酸塩（スト
ラテラ）、NaSSA（ミルタザピン（レメロン等））〕や併用を注意すべき薬があ
ります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または
薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

- ・飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

1 日量		1 錠	2 錠	3 錠	4 錠
飲む時間	朝食後	1 錠	1 錠	2 錠	2 錠
	昼食後	0 錠	1 錠	1 錠	2 錠

レボドパ含有製剤を併用する場合：通常成人は、1 日 1 回朝食後に 1 錠から飲み始め、2 週間ごとに 1 日量として 1 錠ずつ増やし、最も適した量を決めて維持量とします（標準維持量は 1 日 3 錠）。

レボドパ含有製剤を併用しない場合：通常成人は、1 日 1 回朝食後に 1 錠から飲み始め、2 週間ごとに 1 日量として 1 錠ずつ増やし、1 日 4 錠とします。

- ・1 日 4 錠を超えて飲まないでください。
- ・レボドパ含有製剤と併用することにより、レボドパの副作用が強まる場合がありますので、この薬は少量から始めて慎重に増やして維持量を決定します。その後、レボドパとこのお薬を併用したことによる副作用がおこった場合は、この薬またはレボドパの減量等を行います。自己判断せず主治医の指示に従ってください。

●どのように飲むか？

この薬は、舌の上のせ唾液で湿らせてから舌で軽くつぶし、水なしで飲むことができます。また、コップ 1 杯程度の水またはぬるま湯で飲むこともできます。寝たままの状態では、水なしで飲まないようにしてください。

●飲み忘れた場合の対応

決して 2 回分を一度に飲まないでください。気が付いたときに 1 回分を飲んでください。ただし次の飲む時間が近い場合は 1 回とぼして、次の時間に 1 回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

多く飲んだ場合は以下の症状が現れるおそれがあります。これらの症状があらわれたら、すぐに医師または薬剤師に連絡してください。

- ・精神神経系：失神（短時間、意識を失い倒れる）、激越（げきえつ）（感情が激しくたかぶった状態、落ち着きがない）、眠気、幻覚（実際には存在しないものを存在するかのよう感じる）、妄想（根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう）、けいれん、自殺的な行動、認知症（記憶力の低下）、不安、不眠、抑うつ（気分がゆううつになる）、神経過敏（軽い刺激に対する過度の反応）、頭痛、パーキンソン症状（体が動かしづらくなる、手足のふるえなど）の悪化等
- ・循環器：ショック（顔面蒼白（そうはく）や意識の消失）、血圧上昇（頭痛や動悸（どうき））、起立性低血圧（立ちくらみやめまい）、心悸亢進（動悸（どうき））、紅潮（皮膚が赤くなる）、不整脈（めまい、動悸、脈が遅くなる）、血圧低下（脱力感）、発汗等
- ・その他：超高熱（39℃以上の高い熱）、呼吸抑制と不全（呼吸が浅くなる、息切れ）、下胸部痛、開口障害（口が開かない）等

特に、高血圧症、褐色細胞腫、緑内障、糖尿病の人は過量使用に注意してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・めまい、注意力・集中力・反射機能などの低下がおこることがありますので、車の運転や機械の操作、高所作業など危険をとまなう作業は行わないでください。
- ・基本的に食事制限は必要ありませんが、この薬の代謝を阻害する薬と併用するときは、注意が必要です。詳しくは薬剤師にお問い合わせください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳を避けてください。
- ・治療の目的以外でこの薬を使用しないでください。また、他人へこの薬を譲渡しないでください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
幻覚 げんかく	実際には存在しないものを存在するかのように感じる
妄想 もうそう	根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう、論理的な説得を受け入れようとしない
錯乱 さくらん	注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない
せん妄 せんもう	軽度の意識混濁、興奮状態、幻覚、妄想
狭心症 きょうしんしょう	しめ付けられるような胸の痛み、胸を強く押さえつけられた感じ、冷汗が出る、あごの痛み、左腕の痛み
悪性症候群 あくせいしょうこうぐん	高熱、汗をかく、ぼーっとする、手足のふるえ、体のこわばり、話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、脈が速くなる、呼吸数が増える、血圧が上昇する
低血糖 ていけつとう	お腹がすく、冷汗が出る、血の気が引く、疲れやすい、手足のふるえ、けいれん、意識の低下
胃潰瘍 いはいよう	吐き気、嘔吐（おうと）、吐いた物に血が混じる（鮮紅色～茶褐色または黒褐色）、腹痛、胃がむかむかする、黒い便が出る

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、高熱、汗をかく、体のこわばり、疲れやすい、けいれん
頭部	実際には存在しないものを存在するかのようを感じる、根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう、論理的な説得を受け入れようとしない、注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない、軽度の意識混濁、興奮状態、妄想、ぼーっとする、意識の低下
顔面	あごの痛み、血の気が引く
眼	幻覚
口や喉	話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、吐き気、嘔吐（おうと）、吐いた物に血が混じる（鮮紅色～茶褐色または黒褐色）
胸部	しめ付けられるような胸の痛み、胸を強く押さえつけられた感じ、呼吸数が増える
腹部	お腹がすく、腹痛、胃がむかむかする
手・足	左腕の痛み、手足のふるえ、脈が速くなる
便	黒い便が出る
その他	血圧が上昇する

【この薬の形は？】

PTP シート	
形状	円形の錠剤 
直径	7.5mm
厚さ	4.2mm
重さ	160mg
色	白色～微黄色の素錠で 淡黄色～黄色の斑点
識別コード	FP-OD2.5 (PTP シートに表示)

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	セレギリン塩酸塩
添加物	セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒプロメロース、D-マンニトール、酸化チタン、タルク、セタノール、ラウリル硫酸ナトリウム、乳糖水和物、黄色三二酸化鉄、アスパルテーム、ステアリン酸マグネシウム、その他7成分

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・この薬を他人に渡すことは法律で禁じられています。
- ・使わずに残った薬は、薬局や薬を受け取った医療機関に返却してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：エフピー株式会社

(<http://www.fp-pharm.co.jp>)

医薬学術部

電話：0120-545-427

受付時間：9時～17時（土日・祝日・弊社休業日を除く）